

(19) 地方社会 2010年(平成22年)9月26日 (日曜日)

最新の宇宙探査学ぶ

「はやぶさ」「イカロス」紹介 赤羽ホール

日本天文学会の公開講演会「宇宙の謎に挑む 最先端の科学が解き明かす宇宙の姿」(北國新聞社など後援)は25日、金沢市の北國新聞赤羽ホールで開かれた。小惑星探査機「はやぶさ」と「イカロス」のプロジェクトをめぐって、川口淳一郎宇宙科学研究所教授ら3人が講演し、研究者や天文ファンらが最新の宇宙探査技術に理解を深めた。川口教授は幾多のトラブルを乗り越えながら、小惑星イトカワから採取したとみられる微粒子を地球に持ち帰った。



ガンマ線バーストについて解説する村上教授
＝北國新聞赤羽ホール

ガンマ線バーストは、宇宙最大の星の爆発です。ガンマ線バースト(破裂)は、ガンマ線と、X線よりエネルギーが高い電磁波(数兆電子ボルト 数10 keV以上)。

脊髄再生医療に理解

金沢 京大の山中教授講演

村上敏夫金大教授は、宇宙誕生の大爆発「ビッグバン」に次ぐ

爆発現象「ガンマ線バースト」について解説。同大宇宙物理学研究室が開発し、イカロスに搭載した「ガンマ線バースト検出器」の運用状況に触れながら、爆発の起源を探る研究の一端を紹介した。家正則国立天文台教授は、同天文台の「すばる望遠鏡」について解説。大型望遠鏡に採用されている技術が眼底検査などの医療分野に応用されていることも語った。

県脊髄損傷者協会と日本せきずい基金の伸弥教授が講演し、参加者約500人は脊髄再生医療の現状に理解を深めた。

山中教授は、iPS細胞による移植治療の実用化について、細胞作成段階での時間